
忘れられない台風の日。

ななじゅうご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れられない台風の日。

【Nコード】

N6189C

【作者名】

ななじゅうご

【あらすじ】

ある大雨の日の、青子と快斗のほのぼのストーリー。かなり短いので、ささっと読めちゃいます★

9月5日。夏休みも終わり、新学期が始まって間もない日のこと。日本には台風が近づいていて、午後6時ごろになって突然大雨が降り出した。

中学2年生の青子は、1人昇降口で立ち尽くしていた。

青子は傘を持ってくるのを忘れてしまったのだった。さらに、部活の片づけでみんなより帰るのが一歩遅くなったしまったせいで、傘を誰かに借りることも、一緒に帰ることもできなかった。

少しはなれたところで、知らない3年生の先輩達がきゃあきゃあ言いながら相々傘して帰っていったのが青子の目に映った。

（ぬれて帰るしかないな…）

そう思って、大雨の中に出ようと一歩踏み出そうとしたときだった。「傘忘れたのかよ？」

青子が振り向くと、そこには見慣れた幼馴染の姿が：

その幼馴染は、中学2年生になってから急に背が伸びてきたみたいだった。小学生のときは、青子と背は同じくらいだったのに。

それに、肩幅もこんなに広くなかった。

青子がその幼馴染………黒羽快斗から、夏休みの間だけ目をはなした隙に、ずいぶんたくましくなったものだ。

「快斗！快斗じゃん！！久しぶりだね、1ヶ月ぶりくらいじゃない？あたし、夏休みは部活で忙しかったから全然快斗に会えなくて。」
青子はかなり嬉しかった。約1ヶ月ぶりに幼馴染の姿を見ることが出来たのだから。

今年は2人ともクラスが違ううえに、お互いに今年の夏休みはいろいろと忙しくて、最後に2人が会ったのは夏休みに入っすぐのときの、地元のお祭りのときだった。

「そういや全然会ってねーな…どうりで、夏休み中一回もアホ子って叫ばなかったわけだ。」

「…っ！快斗、ヒドいっ！このバ快斗…！！！」

少しむっと来た青子は、冗談半分でこんなことを言った。

「快斗みたいなバカな男の子じゃなくて、もっと優しい男の子だったら、普通こんな雨の日には傘かなんかを………」

そこまで言ったときに、突然快斗が青子に傘を差し出した。

「ほらよ。傘ないんだろ？」

「…えっ？」

少しだけ、本当に少しだけ、快斗が照れているように青子には見えなかった。

「俺、もう一本傘あるから。だから、それ使えよ。」

「え、えっ…？」

「じゃあな、俺忘れ物あるから教室戻るわ！」

青子は、また1人昇降口に立ち尽くしていた。

そして次の日、青子は快斗の家に傘を返しに行ったが、快斗は熱を出していると快斗のお母さんに言われた。

(後書き)

かなりお久しぶりです、ななじゅうごです。

いきなりですが、勝手ながら【あいつのたのみ】を削除させてもらいました……………

最近はいろんなことがあって忙しすぎるので、連載は無理と判断したためです。

なので、これからは不定期に短編小説を投稿していこうと思ってます。これからも、よろしくおねがいします！

さて、今回のめちゃくちゃ短い小説は、今年のコナンの映画の裏ストーリーを土台に考えてみました。

なんの事を言っているか、分かります…よね？笑

コメントなどがありましたら、よろしくおねがいしますm (∞) m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6189c/>

忘れられない台風の日。

2010年10月11日00時57分発行